

知床ヒグマエサやり禁止キャンペーン 第1回部会

平成24年11月27日
知床世界遺産センター レクチャー室

NPO法人 知床斜里町観光協会
斜里町
釧路自然環境事務所

議事次第

- 開会
- あいさつ
- 議事
 - ① 趣旨説明(知床エコツーリズム戦略での提案)
 - ② 事例報告
 - ③ エサやり禁止キャンペーンについて
 - ④ その他
- 閉会

1

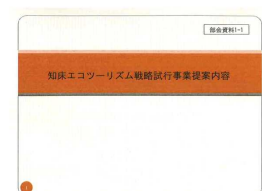
2

議事次第

- 開会
- あいさつ
- 議事
 - ① 趣旨説明(知床エコツーリズム戦略での提案)
 - ② 事例報告
 - ③ エサやり禁止キャンペーンについて
 - ④ その他
- 閉会

趣旨説明(知床エコツーリズム戦略での提案)

※説明 参考資料1-1, 1-2



3

4

議事次第

- 開会
- あいさつ
- 議事
 - ① 趣旨説明(知床エコツーリズム戦略での提案)
 - ② **事例報告**
 - ③ エサやり禁止キャンペーンについて
 - ④ その他
- 閉会

事例報告(知床における人-動物間の課題)



それでは、知床における人間活動と動物との関係をめぐる課題について考えてみましょう。

5

知床:豊かな自然を享受する場所

住民・観光客は豊かな自然の恩恵を受ける
地域社会を支える



豊かな自然環境に恵まれた知床では、その恵みが産業を支え、地域社会を支えています。



国立公園内の自然風景地は観光利用に活用されています。
知床五湖では年間40万人の利用があり、カムイワッカも4.5万人の利用があります。(H23)。

左上:五湖地上遊歩道 右上:五湖高架木道

左下:フレベの滝展望台 右下:カムイワッカの滝

7

6

8

知床に住まう住民が
知床に住まう野生動物と生きる



野生動物との様々な課題

豊かな自然環境に過ごす私たちは、知床に住まう野生動物と近い距離、重なる場所で生活し、産業を行っています。そこでは野生動物との様々な課題が生じています。

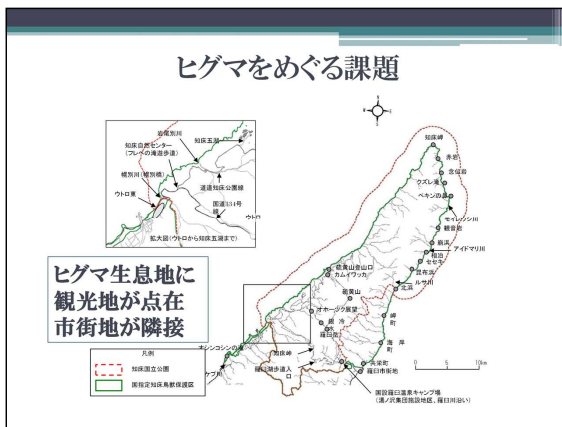
野生動物との様々な課題



豊かな自然環境に過ごす私たちは、知床に住まう野生動物と近い距離、重なる場所で生活し、産業を行っています。そこにおいて野生動物との様々な課題が生じています。

エゾシカによる食害、アライグマの侵入による農業や他の野生動物への被害、オジロワシ・オオワシ・シマフクロウといった希少野生動物の保護増殖、そしてヒグマ・キタキツネへの餌付け・様々な課題があります。

ヒグマをめぐる課題



様々な動物をめぐる課題の中でも、最も深刻かつ重大なのがヒグマをめぐる課題です。それは、観光客との遭遇、各種施設へのヒグマの接近、場合によっては市街地や住居への侵入など、どれをとっても放置しておけないものばかりです。



知床はヒグマの高密度生息地です。ヒグマの生息地に、観光地が点在し、市街地が隣接しています。

ヒグマと人との接触の大半をしめるのがこうした車道沿いとなります。

「平成23年7月17日知床横断道路際でシカ捕食していた一般の人が簡単に立ち入ることができる場所、クマが普通に暮らしているという現状」

園地や登山道



遊歩道・登山道での遭遇

国立公園を訪れる観光客や登山者は、知床五湖やフレペの滝遊歩道、岩尾別登山道等の散策・登山ルートなどでヒグマと遭遇します。

知床五湖高架木道



ヒグマから観光客を守るための高架木道が、平成24年は安全にヒグマを観察するための場として観光客に利用されています。

ヒグマは、自然観光資源としての高い資質を有しており、ヒグマを観察できる高架木道に対し来園者からの一定の評価がされています。一方、ヒグマが愛玩的な鑑賞対象となることや、ヒグマの人馴れを不安視する声もあります。

13

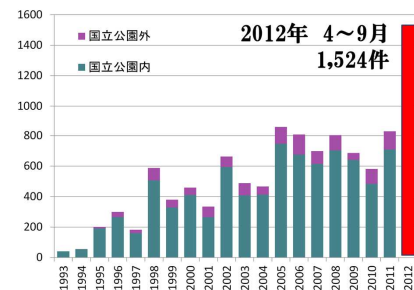
14

ウトロ



遺産地域：国立公園の保護区に市街地が近接しており、遺産地域のヒグマの課題は、観光利用だけの課題ではなく、地域住民の生活にも直結しています。

ヒグマ目撃数の変遷(斜里町)



斜里町内でのヒグマ目撃件数の推移です。

平成23年は822件の目撃がありましたが、平成24年は9月までに1500件と10月までに1600件を超え倍増しています。

目撃数には、ルシャなど奥地の目撃や観光船からの目撃はカウントされていません。

15

16

ヒグマと人の接触頻度が高まる



ヒグマによる人身被害の発生が懸念される

ヒグマと人が接触する頻度が高まると、人によるえさやり、ごみの放置により、人のたべものによりつくヒグマを発生させ、人家を襲ったり、人身被害を与えるケースが発生するのではと懸念されます。

ヒグマへのエサやり
ゴミの放置

不適切な行為により・・・



ヒグマへのエサやり、ゴミの放置、人為的な食物の味をヒグマが覚えると・・・

17

18

イエローストーン国立公園で行われた餌付けの例



アメリカイエローストーン国立公園のかつての状況です。
1960年代まで、北米の国立公園では、生ゴミの管理があるそか
で有り、ゴミ捨て場はヒグマ観察ショーの場所になっていました。

イエローストーン国立公園で行われた餌付けの例

40～50件/年 ヒグマによる人身事故発生

不適切な人の行為が
ヒグマの行動を変える。



道路沿いで餌付けは日常茶飯事であり、その当時は細かい利用ルールもありませんでした。

その結果、恐ろしい事態を招き、1960年代までイエローストーン国立公園では、年間40件から50件ものヒグマによる人身事故が発生していました。

アメリカの国立公園におけるヒグマによる人身被害の3分の2は食物に条件づけられたクマが原因といわれています。

1967～84年にイエローストーン国立公園とグレイシャー国立公園で起きた9件の死亡事故のうち7件はゴミになれたヒグマによるものでした。

19

20

ヒグマへのエサやり ゴミの放置

さいわいにも、知床では深刻な
人身被害は出ていないが・・・



幸いにも知床においては観光客に対する深刻な人身被害は発生していません、しかしながら、被害を受けるかもしれない状況は広くみられます。

観光客とヒグマ

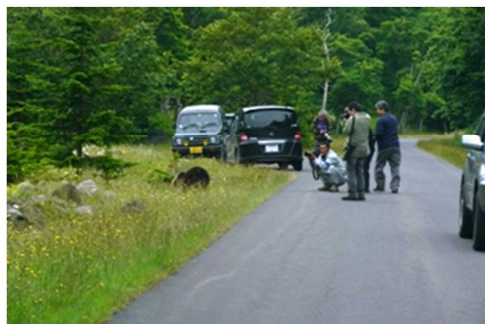


ヒグマの写真を撮ろうと近接していく車両です。
五湖方面からウトロ方面にきていたこの車は、Uターンして寄って
いきました。

21

22

ヒグマへの接近



岩尾別川で兄弟グマに近づき写真撮影をするカメラマンです。危機対応の用意がまるでない状態でヒグマまで数mの位置まで近づいています。

ヒグマへのエサやり



今年8月1日にあった観光客のエサやりの現場(知床財団の車両に設置された車載カメラの映像です)。沿道のヒグマにエサを投げ、撮影をしようとしていました。

23

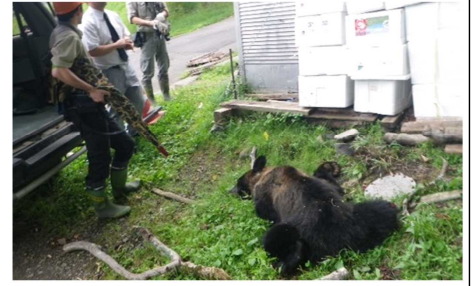
24

利用者のマナー(投棄ゴミにつくヒグマ)



平成24年8月16日に投棄されたゴミにつくヒグマです。(一般提供)

ゴミ問題



人為的な食べ物を得たヒグマを捕殺しなければならないケースもある。

ヒグマはエサに執着する習性があります。人から食べ物を得たヒグマは、その食べ物を求めて出没するようになります。

今年は、ゴミに執着するヒグマを国立公園内で捕殺した事例もありました。

25

ヒグマへのエサやり ゴミの放置

ヒグマによる人身被害の発生は、
ヒグマへの恐怖・憎しみを生む



豊かな自然環境にある知床に
暮らす価値、楽しむ価値を失わせる

ヒグマによる被害が起こる懸念がある状況にあり、被害の懸念に対し、ヒグマへの恐怖・憎しみが生じていきます。

人命は最優先であり、人に被害を与えるヒグマは駆除をしなければなりません。知床の豊かな自然を享受している私たちがこの地に暮らす価値、また訪れる観光客が評価する自然価値、楽しむ価値を失わせます。

ヒグマへのエサやり ゴミの放置

- ・観光客・住民の安全を脅かす
- ・観光地では観光の機会を失わせる
- ・知床の自然価値を失わせる
- ・知床が敬遠されることで、訪問者の減少につながる



ヒグマへのエサやりは、行う本人はヒグマを愛らしい、かわいらしい、かわいそうだといった愛玩的な感情で善意として悪気なく行う行為かもしれません。

しかし、その不適切な行為は、観光客・住民の安全を脅かし、観光の機会を失わせ、知床の自然価値を落とすといった悪行です。

特に人命/財産に関わるという点において、優先的に対処すべき課題となります。

27

26

28

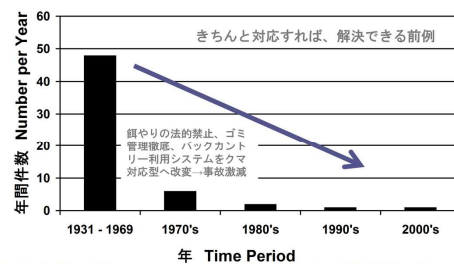
ヒグマへのエサやり

ゴミの放置

原因を人がつくるのであれば、
回避する方法はある。

人身被害は人の不適切な行為により起こります。原因を人がつくるのであれば、その被害を回避する方法はあるはずで

【イエローストーン】の事例



1931-2004年間のイエローストーン国立公園における年代別のクマによる負傷事故の年平均発生件数

イエローストーン国立公園におけるクマによる人身事故(1931-2004) (Schwartz & Gunther 2006)
Bear inflicted human injuries in Yellowstone National Park, 1931-2004. Original data presented by Gunther (1994) and updated here.

イエローストーンではエサやりの法的禁止、ごみの管理徹底などで事故が激減しました。

29

30

【渡島半島】の事例

渡島半島で捕獲されたヒグマの胃からのゴミの出現率

1990年代前半 13%



2000年代後半 4%

渡島半島地域ヒグマ保護管理計画
(2001~)による対応

渡島半島では平成13年よりヒグマ対処の計画を立てて実施し、一定の効果を上げています。

【知床半島】では

自然ガイドがキタキツネへのエサやりを激減させた。



なぜ、エサやりはいけないのか、直接の対話が必要

知床では、以前は観光バスからキタキツネへのエサやりが深刻でした。

自然ガイドが知床に生まれ、バスに乗り込み自然の案内とともに、自然との接し方を説いて、伝えて現在では観光バスからキタキツネへのエサやり行為は激減しました。

31

32

将来にわたり地域住民が安心して安全に住まうために
知床が観光地としての魅力を損なわないことにより、
安定した経済生活を続けるために

- ・ ヒグマへのエサやり、ゴミの不法投棄は厳禁
- ・ マナーの周知を遺産地域に立ち入る前に行う
- ・ 知床に住まう地域の声として発信する



議事次第

- ・ 開会
- ・ あいさつ
- ・ 議事
 - ① 趣旨説明(知床エコツーリズム戦略での提案)
 - ② 事例報告
 - ③ **エサやり禁止キャンペーンについて**
 - ④ その他
- ・ 閉会

「将来にわたり地域住民が安心して安全に住まうために」
「観光地としての魅力を損なわないことにより、安定した経済生活を続けるために」
遺産地域に立ち入る観光客のみなさんに、ルール・マナーを伝え、守ってもらうことが必要です。

ヒグマ事故対策は、交通安全対策と似ています。
深刻な事故が起っていないからこそ、未然に事故を防ぐための取組を進めなければなりません。

本部会では、ヒグマを主たる対象として、知床を訪れる観光客に対してエサやりを禁止する広報事業を進めていきたいと考えています。
知床に関係する皆様の協力のもと、この取組を進めていきたい。この部会への協力をよろしくお願いいたします。

33

部会の構成

提 案 者：知床斜里町観光協会
部会事務局：知床斜里町観光協会、斜里町、
釧路自然環境事務所
構 成 団 体：事務局3者、羅臼町、知床羅臼町観光協会
ウトロ自治会、ウトロ地域協議会
知床ガイド協議会、知床財団
北海道森林管理局、網走開発建設部
北海道オホーツク総合振興局、斜里警察署

10月5日の適正利用・エコツーリズム検討会議にて、部会の構成について討議されましたが、あらためて部会の構成を確認いたします。
この部会には、キャンペーンを行う上で、関係する、関係していただきたい機関・団体に集まっております。

構成員だから無理に予算・資金を投じて事業を自ら興さなければならぬという責務は課していません。
この部会は、それぞれがこの課題に対してできるアイデアを寄せていく場です。

別途資料2 - 1参照

部会の名称・範囲・目標

部会名称：ヒグマエサやり禁止キャンペーン企画部会
部会範囲：
対象動物 ヒグマを対象の中心とする。
(キタキツネへのエサやり行為防止効果も期待できる。)
広報対象 知床を訪れる観光利用者を主たる対象とする
部会目標：
本部会の構成団体の協力の下、啓発活動を進めることにより、ヒグマにえさをやる、ヒグマの生息地にゴミを放置する行為をなくす。ヒグマによる事故・被害の未然防止をする。

部会名称は事務局案として「ヒグマエサやり禁止キャンペーン企画部会」としています。
本部会で取扱う対象動物の範囲は、ヒグマを中心とします。これはヒグマは観光客を含め万一の事故の場合、人命にまで被害が及ぶものであるためです。
また、今年はキタキツネからみでの交通死亡事故が発生しています、課題発生場所が重なること、エサやり行為の特性が似ていること、キツネへのエサやりによる食べ残しをヒグマが食べることから、ヒグマへのエサやり禁止キャンペーンが、キタキツネへのエサやり行為を防止する効果も期待できます。

別途資料2 - 1参照

34

部会の進め方

2012年に発生したヒグマのエサやり行為・接近行為等を
2013年には地域活動によりなくすため、地域協働型の活動
メニュー（広報普及の取組）の取りまとめを行う。

第1回部会 11月27日

部会立上げ、課題共有、活動メニューアイデア出し

第2回部会 2月上・中旬

活動メニューリスト化、実行体制整理、タイトルづくり

適正利用・エコツーリズム検討会議

部会討議結果の報告と活動承認に向けた討議

別途資料2 - 2参照

自由討議

「ヒグマにエサをやってはいけない」理由は？

“エサやりの結果、人(観光客、住民)に被害が生じるから”

“エサやりの結果、ヒグマを殺すこととなるから”

“エサやりの結果、野生のヒグマが野生らしく生きられなくなるから”

37

自由討議

「ヒグマへのエサやりをなくすアイデアは？」



例. メッセージカード配布

例. トイレへの広報掲示



例. ドライバーへの周知



例. レクチャーDVD作成



ヒグマへのエサやりをなくすにはどのようなアイデアがありますか？

目標達成のためにとれる、とれそうなアイデアを持ちましょう。

自由討議

「アイデア・メニューの効果を最大にするには？」

広報を行う場所、体制、組合せなどなどについて意見を出していきましょう。

その意見交換の中で、実効性の高いものをピックアップしてみましょう。

また、そのアイデアを実施した際に、その効果を図る方法についても考えておきましょう。

39

38

40

自由討議

「映像を活用し広報を効果的におこなうためには」

来年度に向けた具体的準備の一つとして、部会ではヒグマへのエサやり禁止を伝えるための映像制作を準備しています。

映像を活用し、広報を効果的におこなうためにアイデアがありましたら、お寄せください。

誰に、どの段階で伝えるものをつくりましょうか？ どのような場所を活用しましょうか？

自由討議

「どのような“ことば”に込めて発信しますか？」

ヒグマとの様々な軋轢を避けるために、人側が守らねばならないルールをわかりやすいフレーズで備えておくなど、広報を行う際に、地域共通のメッセージで発信することで、効果が高まると考えます。

41

42

議事次第

- 開会
- あいさつ
- 議事
 - ① 趣旨説明(知床エコツーリズム戦略での提案)
 - ② 事例報告
 - ③ エサやり禁止キャンペーンについて
 - ④ その他
- 閉会

今後の予定

第2回部会を2月上中旬で調整します。

第2回部会に向け、本日討議していただいた中で、実効性が高そうだという意見があったアイデア、メニューについて、実際にどのようにやっていくかの調整を事務局と、関係者の皆さんの間で行わせてもらい、次回に向けた準備を進めていきます。

43